

当院の内視鏡室について

鋼管病院では消化器疾患（消化管・肝臓・胆道・膵臓疾患）の最新の総合的専門治療を行なう目的で消化器センターを2003年に開設しました。特に内視鏡による検査・治療には力を入れており、2015年度には上部消化管内視鏡件数は6112件、大腸内視鏡検査は1537件、胆膵内視鏡検査が119件を数えました。

今回は、内視鏡室での検査についてと安全についての取り組みについてお話します。内視鏡室では主に、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）と下部消化管内視鏡検査（大腸鏡）と治療内視鏡を行なっています。

上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）とは？

口や鼻から内視鏡を挿入し、咽頭・食道・胃・十二指腸を観察する検査です。検査によって食道癌・胃癌・十二指腸癌、潰瘍、食道炎・胃炎、胃ポリープ・十二指腸ポリープなどの診断をすることができます。



胆膵内視鏡検査（ERCP）とは？

内視鏡を使って胆管・膵管を造影する検査を（ERCP）といいます。口から十二指腸まで内視鏡（胃カメラ）をいれその先端から膵管・胆管の中にカテーテル（細い管）を挿入します。カテーテルから造影剤を入れて、膵管や胆管のX線写真を撮ります。同時に膵液や胆汁を採取したり、病変部から組織や細胞を取って検査を行うこともあります。

ERCPに引き続いて総胆管結石の治療や癌による狭窄に対して治療を行ないます。



下部消化管内視鏡検査（大腸鏡）とは？

肛門から内視鏡を入れて、直腸から盲腸までを観察する検査です。検査によって大腸癌・直腸癌、大腸ポリープ、憩室、潰瘍性大腸炎などの疾患の診断ができます。



カプセル内視鏡検査とは？

超小型カメラを内蔵したカプセルを口から飲み込む小腸や大腸を観察する内視鏡検査です。カプセルは6～7時間かけて消化管を通過しながら画像を撮影し、その画像を記録装置へ転送します。医師はこの画像をもとに十二指腸や大腸の診断を行ないます。

カプセル内視鏡検査の検査中は通常通りの生活を送ることができます。

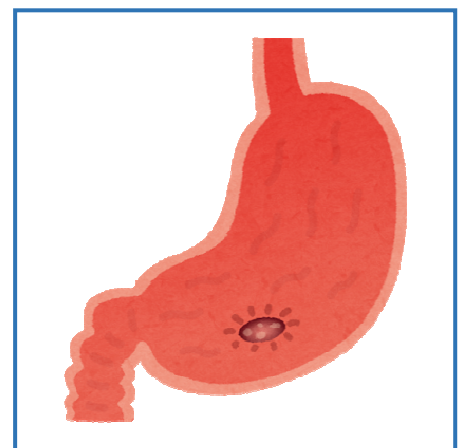


治療内視鏡とは？

内視鏡を使って早期癌を切除したり、消化管出血による吐血・下血時の止血を行なうものです。

吐血・下血などに対して緊急的に内視鏡で専用の金属性のクリップを使用したり、薬を直接出血部位に散布して止血をする事もあります。

粘膜層にある病変（癌など）を内視鏡を使って切除する治療も行なっています。病気の進達度などによって適応かどうかの判断をするのですが、手術に比べて身体に与える負担が少ないというメリットがあります。



* 「胃カメラや大腸鏡の検査は辛くて・・・」となかなか検査に踏み切れない方もいらっしゃると思います。そんな方には鎮静剤を使用してすこしウトウトした状態で検査をする方法もあります。1年に1回ご自分の健康をチェックされてはいかがでしょうか？

内視鏡室での安全の取り組み

このように内視鏡室では比較的体への浸襲のある検査を行なう事になります。検査の内容や治療によっては出血のリスクがある場合もあります。そのため検査の前には飲んでい
るお薬の内容を確認させていただいたり、今までどのような病気に罹ったことがあるかを確認
させていただき、検査の準備をします。

特に抗凝固薬（血をサラサラにするお薬）については医師の指示によって検査前に休薬を
お願いする事もあります。

内視鏡室で特に気をつけていることは患者様の誤認防止です。

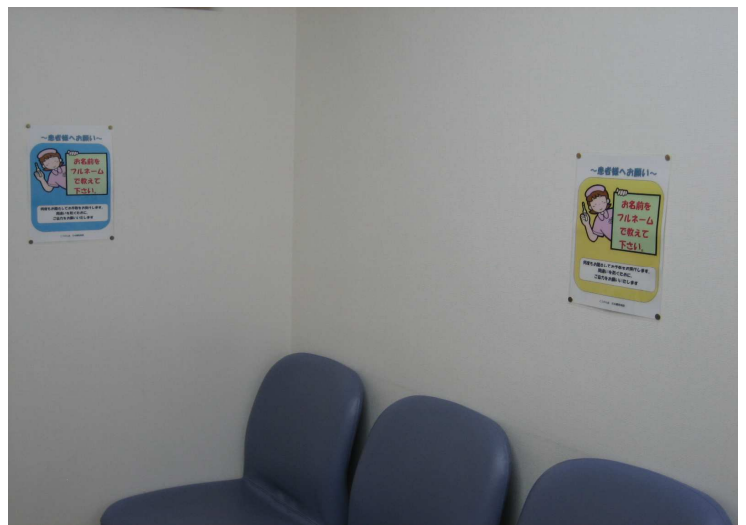
患者様をお呼びした際に別の患者様が検査室へ入ってきてしまうことがありました。

患者様を間違えないように特に気をつけており、そのため何度もお名前を確認させ
ていただいております。

胃カメラ検査の流れ

検査室廊下の待合

順番がくるまで椅子にお座りにな
りお待ちいただきます



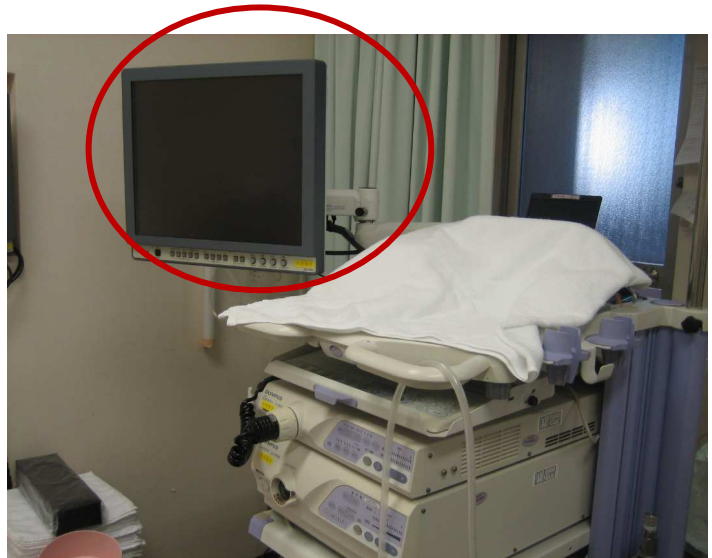
中待合

看護師が中待合にお呼びします
その際にフルネームとお誕生月と
日にちを言っていただきます



検査室

検査室に入ったら検査用の画面を見てご自分のお名前かどうかの確認をしていただきます。
最後にもう一度お名前を名乗って頂き検査を行う医師・看護師全員で最終確認をします



病院のいろいろな場所にこのポスターを掲示しています。

お手数をお掛けしますがご協力をよろしくお願い致します。

